

# 入賞作品一覧

## 【最優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
野村 真奈美	男女格差から考える社会での女性の活躍について	法経科第2部	小論文

## 【学長賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
森下 琴心	日本における同性婚 法整備と子育ての観点から	法経科第1部 法律コース	小論文

## 【優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
伊藤 佳代	伊勢湾台風～情報の受容と活用～	法経科第1部 法律コース	小論文
黒田 若奈	空き家問題について	法経科第1部 経商コース	小論文
服部 史奈	生まれる前からの差別 ～声にならない叫びに気づいて～	法経科第1部 法律コース	小論文

## 【佳作】

氏名	タイトル名	学科	部門
岡澤 楓	女性の社会進出と「2020年30%」を目標とする 管理職登用について	法経科第1部 法律コース	小論文
手嶋 美優	持続可能な社会 ～地方銀行と地域活性化のつながり～	法経科第1部 経商コース	小論文
加羽 麗奈	「多種多様」を受け入れる環境づくりについて セクシュアルマイノリティの視点から考える	法経科第2部	小論文
中澤 菜穂	『体にやさしお！コクウマみそ汁』 ～和食で健康に～	生活科学科 食物栄養学専攻	レシピ

## 入賞作品 小論文要旨

### 最優秀賞 野村 真奈美 「男女格差から考える社会での女性の活躍について」

国連が掲げた「持続可能な開発目標（SDGs）」は「2030年までに極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる」ということを目標としている。その中で日本はG7で最も相対的貧困率が高い。その背景として、非正規雇用の比率が高くなっていることが影響している。さらに、非正規雇用の約7割は女性であり、女性の非正規雇用の約8割は200万円未満である。なかなか縮まらない男女格差は、女性が育児と家事の両立をしなければならぬという考えによるもので、家庭的責任を押し付けられることが女性の社会進出の妨げの原因であることがよく挙げられる。しかし、すべての女性に当てはまる問題ではない。そのため、議論すべき点は女性が社会で個人として活動する上でどのようなことで壁にぶつかっているかである。残念ながら、わが国の女性活躍推進政策には個々の女性が直面する問題に向き合い解決しようとする姿勢が感じられない。それぞれが個人の生き方を自由に選択でき、安心して生活できる社会を実現するためには、性別を含めた個人との向き合い方について学校教育等を通じて人々の意識改革を行い、その成果を法改正や制度改革に反映させていくことが大切である。

### 学長賞 森下 琴心 「日本における同性婚 法整備と子育ての観点から」

私は今回、同性婚が認められる必要性について同性カップルが行う子育ての観点も交えて考えた。まずはLGBT

に関する日本の現状の分析を行った。データ上、「日本はLGBTの差別をなくすためにもっと法整備をすべきだ」と回答した人が7割を超えており、その影響もあって一部の自治体でパートナーシップ制度が導入されつつある。また大衆面では昨年、同性愛が題材となったドラマ作品が流行語大賞のトップ10に入った。これらのことから、日本全体でLGBTに関する諸問題への関心が高まっているといえよう。

同性婚について、これまでは主に「当事者の婚姻」のみに注目が集まりがちであったが、現状の法制度下では、一方のパートナーが相手方の子の親権を持っていないなどといった問題も生じてきている。このように同性カップルの子育てにも限界があることを指摘し、子の福祉の観点からも早急に法整備が必要であると訴えた。社会的な関心が高まっている今、法整備の重要性を更に広め、少しでも早く皆が自身の望む生き方を実現できるよう社会を一步前進させなければならないと私は強く主張したい。

#### 優秀賞 伊藤 佳代 「伊勢湾台風～情報の受容と活用～」

最近、台風による大雨や川の氾濫などにより各地で大きな被害が出ている。今年は特に例年になく大雨に見舞われ、全国で災害が発生した。

今からちょうど60年前の1959（昭和34年）9月26日、紀伊半島に上陸した台風15号は、伊勢湾付近の市町村で甚大な被害を出した。いわゆる伊勢湾台風である。全国で死者・行方不明者は5098人にのぼった。台風による犠牲者は、32道府県に及び、その83%は高潮によって三重県と愛知県に集中した。三重県の沿岸部の市町村が多く死者・行方不明者を出しているながら、三重県三重郡旧楠町（現四日市市楠地区）では早期避難によりひとりの犠牲者も出なかった。

それに対し、長島町や木曾岬町では300人以上の犠牲者が出た。避難の成功例と失敗例を比較し、伊勢湾台風では、停電による通信の切断や、情報の受け手の経験不足などにより、情報が十分に生かされなかったことが大きな被害につながったとわかった。情報の伝達は、昔と比べ、現在は各段に精度が上がった。今後は、一人ひとりが避難時期を見極めるための力をつけ、実際の天気と防災情報を見ながら臨機応変に対応することが必要である。

#### 優秀賞 黒田 若奈 「空き家問題について」

近年、日本では、空き家の増加が問題となっている。過疎化による空き家の増加だけでなく、少子高齢化による人口減少が起き、都市でも空き家が増加している。経済的な理由から、空き家所有者が空き家を管理・活用する事が出来ず、空き家を増加させる原因になっているようだ。空き家を放置すると、防災や衛生面で周辺住民や環境に被害を与える事となる。周辺に悪影響がなく、人々が住み続けたいと思える、持続可能な地域社会にするためには空き家の増加を止めなければならない。

空き家問題に対する行政側の対策としては空き家所有者に助言・指導・勧告・命令を行うことが可能である。所有者側の対策としては売却する、リフォームしてシェアハウスや老人ホームとして再活用するという方法などがある。リフォームに行政が補助金を出せば、空き家対策と低所得者・高齢者救済が進むため、このような制度を全国に広げていくべきである。

#### 優秀賞 服部 史奈 「生まれる前からの差別～声にならない叫びに気づいて～」

「ジェンダー平等の実現」－これは世界が2030年に向けて、持続可能な社会を形成するために合意した17の目標のうちの一つだ。ジェンダー差別とは、具体的に、人身売買や性的暴力、強制的な早期結婚など様々な問題が挙げられる。このような問題が原因となって生じる劣悪な環境を改善するためには、意識改革が重要なポイントになるのではないかと考えた。なかでも、女性よりも男性のほうが偉いという偏った考えを植え付けるような教育をしない、自分を大切にすることの重要性を説いて女性の自己肯定感をあげる、健康に関して正しい知識を広める、実際にジェンダー平等が確立している社会が存在していることを知らしめて一刻も早い差別撤廃を促す、以上の4項目が特に先決ではないか。また、自分の国でひどい差別が見受けられないからといって他人事にするのではなく、すべての国がこの問題と真剣に向き合うべきだ。